

事業所における自己評価結果

事業所名

岐阜市立恵光学園

公表日 令和 7年 3月 18日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか	10	13	・もっと広いスペースがあると良いが、使用しないものは事前にスペース外へ運んで、効率的にスペースを使用している。 ・遊戯室や園庭やトイレなど共有スペースについては、利用時間をずらす等して密集しないように工夫している。親子登園が多い日の雨天時は、遊戯室を優先的に使用できるように、調整している。	・廊下なども上手く利用しながら、活動を工夫していきたい。 ・全親子登園になると支援室は狭いと思う。特に年長児が多いクラスは子どもも体が大きいので、より狭く感じる。親子療育をするには、教室が狭く、人をかき分けて歩く状態。修繕では解決できないため、建て替えが必要。 ・支援室は基準を満たしているが、活動用具を含めた物の収納スペースがない。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	15	8	・活動内容やこどもの状態に合わせて、柔軟に職員配置を見直しながら、必要な体制を確保している。	・基本的生活習慣について取り組んだり、自由遊びの時間に遊んだりする時や、子どもが不安定になった時に担任以外の職員にすぐにサポートしてもらえるとより丁寧に支援が行え、発達が進むのではないかなと思う。 ・配置は適切だが、職員が休んだり、支援の場面でトラブルがあったりしたときに、足りない場面もある。 ・保育所の職員配置基準が見直されるため、療育施設も見直されることを希望している。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	15	8	・古い建物なりに配慮をし、毎年少しずつ改善できる部分に手を加えてきている。 ・建物が古く、完全バリアフリー化は難しいが、子どもに分かりやすい構造になるような環境づくりの工夫をしている。 ・視覚的にわかりやすいよう構造化されているが、手作りで補っているものが多い。	・怪我がなく安全に生活するための配慮をするよう努力はしているが、スペースや収納がないため、こどもの生活や過ごしやすい環境とまではいえない。 ・階段も長く、色々なところ（トイレや玄関など）に段差があり、バリアフリーに対応していない。トイレの環境などは改善されるといい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか	17	6	・安全に過ごせるように常に見直ししながら、環境整備を進めている。 ・施設は老朽化していますが、毎日、教室や廊下、トイレ等の掃除が行われているため、清潔が保たれていると思う。	・改修や清掃等で以前に比べると環境はよくなった。しかし、冬でも冷たい水で手を洗っており、感覚過敏があるお子さんにはしんどいため、お湯が使えるといい。 ・清掃は行き届いているが、トイレの老朽化は気になる。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	18	5	・不安定児や体調不良時等、必要に応じて別室を使用して対応している。 ・体調不良児を隔離したり、発達検査や相談・懇談等を個室で行っている。 ・常に決まった部屋が空いているわけではないが、使用できるように配慮している。	・気分を落ち着けるスペースが常に使える状態ではなく、使用する部屋を確保するため荷物を退けて使用している。 ・部屋や場所がいつも空いているとは限らず、子どもが必要な時にすぐ使用できるとは言えない。 ・目が届き、クールダウンできるスペースがあるとよい。

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	23	0	・業務改善は進められているが、新たな業務も増えている。 ・週例会議として実施している職員会において、積極的な意見交換が行われている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	23	0	・児童発達支援ガイドラインに基づき、年に1回保護者アンケートを実施している。アンケート結果を受けて、可能な限り改善を行っている。 ・保護者の意見には目を通し、今後に活かせるようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	23	0	・職員会議や、各フロアの会議で意見を出し、支援や業務改善に活かしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	23	0	・3年ごとに第三者評価を受審し、その結果に基づいて改善を行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか	23	0	・職員全員が受講する研修もあれば個人が受講する研修があり、学ぶ機会が多くあると思う。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	23	0	・職員で話し合い、学園オリジナルの支援プログラムが作成できたと思う。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	23	0	・丁寧なアセスメントと、親子登園や個別懇談の場で保護者の意向を聞き取るようにしている。 ・項目別に園児一人一人の現状をアセスメントし、目標を定めて支援方法を明示している。必要に応じて公認心理士が発達検査を実施して、客観的に子どもの発達状況を確認している。	・今までは毎日通園することが前提だったため、一緒に生活する担任が子どもの行動からアセスメントをすることが可能であったが、今後、多様な通園を展開するなら、アセスメント方法を検討していく必要がある。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	23	0	・担任と児童発達支援管理責任者等で話し合い、作成している。 ・児童発達支援管理責任者及びクラス担任間で一人一人の園児についての育ちを共有し、検討会議を実施して計画の立案を進めている。 ・発達支援の方法のみならず、保護者の要望や、進路に向けた準備等についても保護者との面談で話し合いを行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	23	0	・担任間で共有して支援している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	22	1	・日々の支援や行動観察により、子どもの姿を的確に捉えて記録をとっている。	・日々の行動観察は行っているが、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントは発達検査のみであり、発達検査も全員に実施しているわけではないため、学園に合ったアセスメントツールを探す必要がある。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	23	0	・児童発達支援計画（個別支援計画）を策定する際には、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域の視点で、「本人支援」、さらに「家族支援」、「移行支援」を設定して支援をしている。支援の内容も具体的で、こどもの思いに寄り添っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	23	0	・クラス担任間で意見交換しながら立案している。 ・クラス担任で話し合うことはもちろんのこと、クラスを越えたグループ活動の時にはグループの職員で話し合いをしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	23	0	・運動あそび、戸外あそび、仲間あそび、リズムあそび、制作あそびと様々な活動プログラムを提供していると思う。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	22	1	・集団活動の中で個別対応や個人で行う活動に取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	23	0	・クラス以外にも、フロアでの打ち合わせもあり、連携が取りやすい。 ・毎朝、必ず打ち合わせを行い、ねらいを決めて役割分担している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	22	1	・職員によって勤務時間が異なっていたり、バスの添乗などで不在になったりするので、毎回その日のうちに振り返りができないこともあるが、子どもたちが帰った後や次の日の朝など、職員間で情報共有することを心がけている。 ・子どもが降園後に担任間で今日の振り返りを行い、次への支援に活かしている。	・活動準備が忙しくて、共有したいことが後回しになってしまう場合もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	23	0	・効率的に記録をとることを大切にしている。記録は振り返りの機会でもあり、次の支援につなげるためにも重要である。	・必ず記録をとることを大切にしているが、他の業務に圧迫されることが多々ある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	23	0	・半年ごとにモニタリングを行い、見直しをしている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	22	1	・常に担任やこどもに関わる職員と情報を共有するようにしている。	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	21	2	・毎年、職員数名が公立保育所で現場実習、カンファレンスを行っている。 ・市内の保育所から、療育実習を約30名受け入れている。	・現在、幼稚園や保育の現場が大きく変わってきているため、より多くの職員が経験をすると良いと思う。 ・就学先への見学や実習を実施したい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	2	・就園前には就園先の先生に来園してもらい、実際に子の様子を見てもらっている。また、口頭や文書にて引継ぎを行っている。	・保育園と児童発達支援センターが同じ建物で保育出来ると良い。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	2	・就学前には就学先の先生に来園してもらい、実際に子の様子を見てもらっている。また、口頭や文書にて引継ぎを行っている。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか	21	2	・市内の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、保育所やこども園に学園の研修に参加していただくことで、地域との交流や支援の質の向上につなげている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	23	0	・年間研修計画を作成し、正規・非正規職員全員が順番に外部研修等にも参加できるように調整している。外部研修のほか、職員による職場研修、講師を招いての職場研修等を計画的に実施している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	21	2	・岐阜市の療育総合判定会議・教育支援委員会、架け橋期支援委員会など保育や教育との連携や子どもの支援のための会議に出席している。	
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか	20	3	・まだ全ての園児が対象ではないが、今年度インクルーシブ交流活動を開始できたことは一歩前進したと言える。今後、対象児を増やしたり、交流先を開拓したりしていけると良い。 ・交流保育を利用されている子もいる。	・継続児は交流があるが、新入園児はあまり外部と交流がないため、来年度より交流する機会を作っていく。
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	23	0	・親子登園の日や直接送迎の日には口頭でこどもの状況を保護者に伝えている。また、毎日の連絡帳でもお知らせしており、保護者と発達の状況や課題について共通理解ができていると思う。	

	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	23	0	・ペアレント・トレーニングや保護者向け学習会が学園で開催されている。また、保護者向けの外部研修の案内も随時されている。	
	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	23	0	・「学園生活のしおり」を毎年改定して配布している。年度初めに説明会を実施するほか、保護者学習会や保護者会を利用し周知に努めている。 ・支援プログラムはコドモンの資料室に格納し、保護者が自由に確認することができるようにしている。	
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	23	0	こどもの発達段階や特性、個別懇談で保護者の方の願いを聞きながら、児童発達支援計画(個別支援計画)を作成している。支援の内容についてもこどもの思いに寄り添った内容になるようにしている。	
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	23	0	・個別懇談で保護者と子どもの姿を共有して、児童発達支援計画(個別支援計画)を作成し、完成したものを保護者に確認してもらい同意のサインをしてもらっている。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	23	0	・年2回、個別懇談が行われている。それ以外にも随時保護者の悩み等に対する相談に応じていると思う。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	20	3	・保護者同士は、懇談会やフリートークが行われ、交流する機会が設けられている。 ・親子療育を基本としているため、日々の療育を通じて保護者間交流がある。保護者学習会や保護者同士のフリートーク、給食試食会などの交流機会を設けている。	・今年度きょうだいが参加できる行事を1回行うことができた。 ・きょうだい同士で交流する機会は「ファミリーフェスティバル」しかないため、もっと兄弟姉妹が楽しめる行事を企画したい。
保 護 者 へ の 説 明 等	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	23	0	・日々、保護者の思いを傾聴しながら、こどもの療育内容を共有して進めている。 ・個別懇談や保護者懇談の機会を設けるほか、保護者に「個別(懇談)希望カード」を配布し、「相談を担当してほしい希望職員」を選んで希望による相談を随時受けられるようにしている。	
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	22	1	・ホームページやパンフレット、通信(けいこう)等により、サービスの内容等を公表している。 ・登降園管理アプリ「コドモン」を活用し、活動等の状況や行事予定を保護者と共有している。	

41	個人情報の取扱いに十分留意しているか	23	0	・個人情報を取り扱う時はダブルチェックを行い、配布ミスや情報漏洩に留意している。	
42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	23	0	・園児の状況に応じて、身振り、指差しや絵カードなど、言葉以外の方法を使った意思表示（コミュニケーション）が図られるよう工夫している。活動の中で「〇〇ほしい」「手伝えてほしい」「トイレにいきたい」など、意思表示を促す場面を作ったり、意思表示ができるまで待つなどの配慮をしている。R5年度より、PECSの研修を職員2名ずつが受講し、絵カードを使って自分の気持ちを伝えることを学ぶための方法について、実践的な取り組みを行っている。	
43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	16	7	・地域の親子向けにきらきら教室を開いたり、地域の関係施設職員に向けて、学園で開催する研修会に参加を呼びかけたりしている。 ・行事ボランティアを積極的に受け入れている。 ・乳幼児健診への職員派遣、寄付をいただいた企業や団体に学園行事に参加してもらっている。	・今は行事に地域住民を招待していないが、園庭開放を行ったり、地域住民が参加できる行事を実施したりして、学園を理解してもらえると良い。
44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	23	0	・各マニュアルを整備し、研修や訓練を計画的に実施している。登降園管理アプリ「コドモン」の機能を利用して、保護者の伝達訓練を実施した。各マニュアル等について、「コドモン」の資料室内に格納し、保護者にも情報を共有している。	
45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	23	0	・昨年度、業務継続計画を策定し、今年度も必要に応じて改訂を行っている。研修や訓練についても計画通り実施されている。	
46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	23	0	・事前に服薬や発作等のこどもの状況について健康管理カードに記入し、職員間で情報共有している。ダイアアップ使用やブコラム、エピペン処置について、看護師、薬剤師から定期的に指導を受け、医師の指示書に基づき場面に応じた対応ができる体制を整えている。 ・職員会で情報共有をしているとともに、バスにも発作時対応方法を書いた紙を持っているようにしている。	

非常時等の対応	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	23	0	・食物アレルギーがある子どもの対応について、職員マニュアルに定めており、主治医の意見書に基づいた対応を行っている。 ・医師の指示書だけでなく、個別の食物アレルギー発作時マニュアルを作成している。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	23	0	・安全計画を作成し、計画に基づいて研修や訓練を実施している。 ・今年度、引き渡し訓練や水害時の避難訓練、非常食訓練を新たに計画し実施した。	
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	23	0	・安全計画について、保護者向けに説明を行い常に内容を確認できるように登降園管理アプリ「コドモン」の資料室内にも格納している。 ・避難訓練等の予定を保護者にも周知するとともに、親子登園時には保護者も避難訓練に参加し、実際の避難状況についても共有している。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか	23	0	・日々の療育の中で起きた事故に結びつきそのような事案はヒヤリハットを作成して全職員で共有している。	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	23	0	・こどもの権利委員会を設置し、虐待など権利侵害の状態になっている園児の早期発見に努めている。 ・子どもの権利委員会のアンケートでは、虐待に対して職員の自己チェックに加え、他者のチェック欄もあり、職員同士がお互いに検討し合える体制ができている。 ・虐待を防止する研修を行っている。	
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	20	3	・こどもの権利委員会を設置し、虐待など権利侵害の状態になっている園児の早期発見に努めており、権利侵害と思われる状況は見受けられていない。また身体拘束は行っていない。	・頭部保護帽は、発作等により転倒が心配される場合のみ使用している。今後も支援場面において必要な場合は児童発達支援計画に記載していく。 ・該当するケースがない。